

太陽がいっぱい

観賞日 2018・7・16

制作 1960年 仏・伊
上映時間 122分
原作 パトリシア・ハイスミス
監督 ルネ・クレマン
撮影 アンリ・ドカエ
音楽 ニーノ・ロータ
出演 アラン・ドロンの(トム・リプレー)、マリー・ラフォレ(マルジュ・デュヴァル)、
モーリス・ロネ(フィリップ・グリーンリーフ)

【あらすじ】

主人公のトムはフィリップの父親から放蕩息子をイタリアから連れ戻して欲しいという依頼を引き受けたが、フィリップには戻る気が全くない。ある日、トムはフィリップと彼の恋人のマルジュと三人でヨットに乗り込む。ヨットの上でフィリップに馬鹿にされたトムはフィリップを殺害してしまう。その後、トムはフィリップに成りすますが、フィリップの友人であるフレディに見破られそうになりフレディをも殺害してしまう。

トムはフレディ殺しの犯人を既に死んでいるフィリップに被せようと完全犯罪を企み、すべて思惑どおり進んでいたかのようにみえたが・・・。

【解説】

■ポイント

- ・アラン・ドロンの魅力がいっぱい
ドロンの24歳の出世作。圧倒的なオーラと色気。
- ・トム＝アメリカを象徴：成り上がり、下品、若く引き締まった肉体
フィリップ＝フランスを象徴：資産家の息子、不真面目
トムがフィリップを殺害し完全犯罪を企むが失敗＝中華思想の国フランス

■見どころ、聴きどころ

- ・有名なラスト・シーン
天国から地獄へ一気に転落(伏線：「地獄まで一緒だよ」いうトムの台詞)
2時間ドラマなどでも多用されている。
- ・映像美(アンリ・ドカエのカメラ)
イタリアの美しい街並みと紺碧の地中海
- ・ニーノ・ロータのテーマ曲
哀愁のなかにも甘美さを秘めたメロディー
1950年代、60年代は名曲映画音楽の宝庫(ロータ以外にも)
ヘンリー・マンシーニ、フランシス・レイ、エンニオ・モリコーネ・・・